三年古典B　課題3　解答例

その人の笛の音は、特別に素晴らしかったので、試しに、笛を取り替えて吹くと、（吹いてみたところ）　世に二つとないほどの（音を持つ）かの人の笛の音、ことにめでたかりければ、試みに、かれを取り替へて吹きければ、世になきほどの笛である。その後さらに数ヶ月になったところ、（度々）出会って笛を吹いたけれど、「元の笛を返してもらおう」とも言わなかったり。その後、なほなほ月頃になれば、行きあひて吹きけれど、「もとの笛を返し取らむ。」とも言はざりけれので、長らく取り替えたままで（長い間）そのままになってしまった。三位が亡くなって後、帝がこの笛をお取り寄せになって　当時の笛の名手たちにお吹かせになったのだが、ば、長く替へてやみにけり。三位失せて後、帝、この笛を召して、時の笛吹きどもに吹かせらるれど、その音を吹き表す人はいなかった。（笛の音の素晴らしさを表現できる人）音を吹きあらはす人なかりけり。

8＝①　13＝①　21＝①　すべて①

問一	①	尊敬語																						
問二	使役		問三		①		問四	①	ぎょかん	②	ご感心		問五	博雅の三位										
問六	①	得たり	り	け	る	と	こ	そ	聞け	②	得たりけると聞く					③	手に入れたと聞く							
問七	朱雀門		問八	★						問九	褒めたので	褒める声がしたので							問十	鬼				
問十一	月の夜、朱雀門に行ってこの笛を吹いたところ、門の二階の上から、（よく通る）大きな声で、「やはり名品であることよ」と褒める声がしたこと。																							
問十二	20	①	謙譲語		②	筆者	から	帝	へ	③	申し上げ（る）				④	言ふ								
	22	①	尊敬語		②	筆者	から	帝	へ	③	お知りになる　ご理解なさる				④	知る								

「おと」、と読みたいところなのだが、本文は「ね」となっているよう。皆さんもどちらが良いのか、なぜなのか、考えてみましょう。

問一　★この「召す」は人に対してなので、呼び寄せる。こういう判断を利かせるように。

問六　★鉄則！　「こそ」＋已然形、が出てきたら、已然形を終止形に変えて読むこと。連用形に変えることは、まずないはず。結びは流れているから。

問十二　20「奏し」たのは浄蔵。敬意の対象は帝。従って謙譲語。